

生徒の実態および定期考査等を含む学力調査結果等に基づく内容別・観点別分析表（様式2）

国 語

	生徒の学習状況について の実態 (定期考査等の結果も含む)	全国、東京都および練馬区の学 力調査と学校の結果分析	内容別・観点別の分析
1年	授業に対する態度はまじめで、課題にもよく取り組んでいる。小グループによる話し合いも活発である。しかし、発言力のある生徒の発言に頼り、自らの考えと比較して探究する態度はまだ十分とは言えない。個人差も大きい。基礎学力の定着が今後の課題である。		知識・理解は、個人差が大きいので、機会を捉えて既知の内容を確認していく。話すこと・聞くことは、自分の考えをまとめ、伝わりやすい発表の仕方を意識させる。書くことでは、条件に従って表現するトレーニングを積み重ねていく。読むことに関しては、主体的に作品を読む場面を多く設定する。
2年	国語に対する興味・関心のある生徒が多い。毎時間の漢字テストでは、休み時間に勉強するなど、大変意欲的である。プリント課題にも真面目に取り組んでいる。授業中の態度もよい。一方で、自分で集中力が続かず、学習支援が必要な生徒も存在する。学力差が大きい。	都の学力調査では、教科の内容、読み解く力に関する内容、どちらもほとんど都の正答率と同等である。総合的に見て基礎的な力は定着していると言える。特に取り出す力が都の正答率を上回っており、今後の伸びが期待できる。一方、解決する力は都の平均をやや下回った。今後の課題としていきたい。	知識・理解については、個人差が大きい。授業の中でも指導法を工夫していくことで、伸ばしていく必要がある。書く力に関しては、意見をまとめたり、条件を意識して書いたりするトレーニングを意図的に行い向上させたい。読むことに関しては、自分の意見を持ち、主体的に読む場面を多く設定していく。
3年	授業や課題に対して真面目に取り組む生徒が多い。漢字テストに対する意欲も高く、事前に練習プリントを提出し、小テストを受けている。書くことに関しては、特に個人差が大きく、学習支援が必要な生徒も存在する。	国の学力調査では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」のすべての項目で全国平均を上回っている。国語Bでは短答式、記述式の問題形式の正答率も高い。ただ、書く能力が東京都の平均を下回っている。今後の課題である。	関心・意欲をもって取り組んでいる生徒が多い。話すこと・聞くことの力の向上のために、3分間スピーチなど発表場面を増やしている。書くことに関しては、自分の意見をまとめたり、条件に合わせて書いたりする機会を増やす。読むことについても作品を読む場面を設定していく。

生徒の実態および定期考査等を含む学力調査結果等に基づく内容別・観点別分析表（様式 2）

社 会

	生徒の学習状況について の実態 (定期考査等の結果も含む)	全国、東京都および練馬区の学 力調査と学校の結果分析	内容別・観点別の分析
1年	授業への取り組みは真面目であり、ワークシートや課題では自らの考えを自らの言葉で表現しようと熱心に取り組んでいる生徒が多い。一方で、苦手意識がある生徒が多い。定期考査では、点数分布が二極化したのが見られた。	/	知識・理解や資料活用能力には大きな個人差がある。毎回の授業の提示資料に統計を用いて、着目点を示したり、個別指導をしたりすることで定着を図っていく。また、今までの知識を踏まえて、自分の新たな考えに結びつけ、表現する機会を授業の中で設けたい。
2年	授業は、多くの生徒が意欲的に取り組むことができている。授業開始時に行う前時の復習プリントでも多くの生徒がしっかりと取り組んでいる。定期考査では資料を読み取る問題や自分の考えを表現する問題につまづく生徒が多く見られた。	都学力調査では、教科の内容については、4観点全てで都平均を下回った。この結果から基本的な力がまだ身についてなく、興味・関心も低いことが読み取れる。今後は、既習事項についても復習を繰り返し行いつつ、興味をもてるよう、教材や指導方法を工夫していく必要がある。	教科の内容の4観点の中では、「思考力・判断力・表現力」に関する問題の正答率が都平均より9ポイント低く、特に課題が見られた。授業において、資料等の読み取りを行うとともに、各個人の考えをまとめたり、発表したりする場を設けて、思考力・判断力・表現力を育成する。
3年	授業への取り組みは真面目である。毎時間、ワークシートを意欲的に取り組んだ結果、自分の考えを自分の言葉で表現する力がついてきた。一方、定期テストでは、家庭学習に取り組む時間に個人差があるため、できる生徒とできない生徒の間の差が埋まっていない状況がある。	全体的に全国や区の平均を上回っている。特に、基礎的な知識を応用して問題を解く力(活用)では、全国平均を大幅に上回るなど成果がでた。しかし、問題の内容別正答率では、「日本の地域構成」、「身近な地域の調査」の領域で全国平均を下回り、定着していないことがわかった。授業で問題の解き直しをする等、取り上げたい。	学力調査では、すべての観点別正答率で区・全国を上回っていたことは大きな自信となった。しかし、個人的には「資料活用の技能」や「社会的な思考・判断・表現」の力がまだまだついていないと考えている。授業の中で必ず意見交換の場を設ける等、自己表現活動を今後も取り入れていく。

生徒の実態および定期考査等を含む学力調査結果等に基づく内容別・観点別分析表（様式2）

数 学

	生徒の学習状況について の実態 (定期考査等の結果も含む)	全国、東京都および練馬区の学 力調査と学校の結果分析	内容別・観点別の分析
1年	授業の雰囲気は、発言も多く意欲的な生徒が多くみられる。一方で、得意な生徒と苦手な生徒の差が大きい傾向がある。苦手な生徒に対しては、夏期補習やテスト前の補充教室などを利用して、基本的な学力の向上を目指していく。また、得意な生徒に対しては、プリント内に応用問題を入れて対応していく。	/	関心・意欲・態度は、全体的に高く、授業や課題に対して真剣に取り組む生徒が多く見られる。ほとんどの生徒が塾を含め、家庭での学習習慣があるため、知識・理解の観点の力は高い。しかし、授業で得た知識を応用して思考し、自分の言葉で表現する力が弱い。今後は、授業の中でディベートや意見交換の場を設けるなど、自己表現する活動を取り入れていく。
2年	授業に対して真剣に取り組む生徒が多く、ノートもまじめにとっている。一方で、復習の習慣がなく、基本的な学習内容が定着していない生徒との差が大きくなっている。夏期講習やテスト前に補習を行うことや、復習をする習慣をつけさせること、少人数での指導をうまく活用して、低学力の生徒の学力を向上させていく必要がある。	「教科の内容」については、おおむね満足することができる。特に「技能」については、とても高い正答率が出ているが、「意欲・関心・態度」は都の平均に比べて、わずかに低い水準となっている。また、「読み解く力に関する内容」に関しては、「解決する力」が低い。今後の課題は、興味関心をいかに思考判断につなげていくか、文章から問題を読み取るかという点である。	「関心・意欲・態度」は、全体的に高く、授業や課題に対して真剣に取り組む生徒が多く見られる。「知識・理解」「技能」に関しては、授業内で理解する力は高いが、学習内容の定着に課題が見られるので、基礎・基本的な内容にも繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る。「見方・考え方」については、文章が読み取れず問題を解けない生徒がいる。多くの問題に取り組ませて、文章を読む力を身につけていく。
3年	授業に対して真剣に取り組む生徒が多い。基本的な計算能力は身につけているが、一方で、復習の習慣がなく、基本的な学習内容が定着していない生徒との差が大きくなっている。夏期講習やテスト前に補習を行うことや、復習をする習慣をつけさせること、少人数での指導をうまく活用して、低学力の生徒の学力を向上させていく必要がある。	全国学力調査の結果から、教科の内容については、おおむね満足できるといえる。「見方や考え方」に関して課題があり、文章を読み取り、情報を正確に処理する力が低いと考えられる。また、言葉で説明をする問題について課題がある。その計算にどうやってたどり着いたのか、理由をもって説明できる力を今後は身につけていく。	「関心・意欲・態度」に関しては、全体的に高く、「知識・理解」「技能」授業内で理解する力は高いが、学習内容の定着に課題が見られるので、もう一度学習し身につけて定着を図る。特に今までやったことを忘れてしまう生徒が多いので復習に力をいれる。「見方・考え方」については、文章が読み取りに課題が見られる生徒が多い。内容を読み取る力を身につけて、多くの問題に取り組ませながら定着を図る。

生徒の実態および定期考査等を含む学力調査結果等に基づく内容別・観点別分析表（様式2）

理 科

	生徒の学習状況についての実態 (定期考査等の結果も含む)	全国、東京都および練馬区の学力調査と学校の結果分析	内容別・観点別の分析	
1年	意欲をもって実験観察に取り組んでいる生徒が多い。基礎的な知識は定着している生徒が多いが、計算や科学的なものの考え方を問う問題が苦手な傾向がある。実験の説明などが、一度では理解できない生徒が多く、聞く力に課題を感じている。		理科、特に実験や観察に対して関心、意欲が高く、実験、観察の取り組みも概ね良好である。実験観察の基礎操作の習得は丁寧に指導する必要がある。科学的思考、表現は定期考査の記述問題や実験報告書の結果の整理、考察において、今後、繰り返し指導の必要がある。	
2年	実験観察に意欲をもって取り組み、基礎操作の習得も概ねできている。基礎的な知識は定着している生徒が多いが、計算や科学的なものの見方、考え方を問う問題に対して、自ら問題解決する姿勢が乏しい生徒が多い。		学年全体の学力調査結果は概ね良好である。 「シダ植物」、「質量パーセント濃度」、「力」、「ばねののび」の定着が低く、それらの知識を活用して科学的にものごとを考えることに課題が見られる。	基礎的な知識は概ね定着している。しかし科学的思考・表現は、定期考査の記述問題や実験報告書の結果の整理、考察においても同様の傾向が見られ、自ら問題解決することが苦手であると考えられる。今後も時間をかけて取り組むことが課題である。
3年	実験観察に意欲をもって取り組み、基礎操作の習得も概ねできている。基礎的な知識は定着している生徒が多いが、得意な生徒とそうでない生徒の差が激しい。基礎も定着しつつ、計算やグラフの問題にも今後は取り組まなければならないと感じている。		全国学力調査の結果から、理科については、多少満足できるといえる。「科学的思考」や「実験の考察」に関して課題があり、また、「グラフの書き取り」の定着が低い。 基礎的な学習内容が定着している生徒と、していない生徒に分かれている。基礎となる土台をしっかりと身につけることが今後の課題である。	基礎的な知識は概ね定着している。しかし定期考査等では科学的思考・表現の記述問題や実験報告書の結果の整理、考察においては手がかからない生徒が多く、今後の課題であると考えられる。今後も時間をかけて思考・表現を育成することが今後の課題である。

生徒の実態および定期考査等を含む学力調査結果等に基づく内容別・観点別分析表（様式2）

音楽

生徒の学習状況についての実態（定期考査等の結果も含む）	
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね落ち着いて話を聞き、授業に取り組むことができている。 ・教えたことをよく理解し、基本的なことはよく定着していて、定期テストでも高得点が取れていた。 ・歌唱表現はややおとなしいので今後積極的な表現力を高めていきたい。 ・音楽の特徴とそこから感じ取ったことの関連を、他者にも分かるよう言葉や文章にすることに課題がある。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現の喜びを感じ、積極的に音楽表現をしようとする雰囲気が出てきた。 ・基礎的な音楽用語や記号についての知識が不足している生徒が多めで、定期考査の結果を見ても知識理解の生徒によつての個人差が大きい。教えると理解して読譜や音楽表現に生かそうとしている。 ・音楽から感じ取ったことや自分の表現の意図などを、他者にも分かるよう言葉や文章にすることにやや課題がある。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に取り組み、積極的に音楽表現をしようとする姿勢が見られる。積極的に声を出して歌える生徒が多い。 ・基礎的な音楽用語や記号についての知識を身に付け、楽譜から読み取ったことを表現に生かそうとする力が伸びてきた。 ・音楽から感じ取ったことや自分の表現の意図などを、他者にも分かるよう言葉や文章にすることに苦手意識を感じている生徒がいる。

生徒の実態および定期考査等を含む学力調査結果等に基づく内容別・観点別分析表（様式2）

美術

生徒の学習状況についての実態（定期考査等の結果も含む）	
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて授業を受けることができ、座学の内容も集中して聞くことができるが、初めて行う作業などでは慎重になるあまり時間がかかりすぎることがある。 ・落ち着いているが、説明を聞けていない生徒もあり、課題のやりなおし等が必要な場合がある。 ・豊かに発想や構想を練ることができ、自分らしく創意工夫を凝らして制作しようと意欲的な生徒も多いが、意欲が低く制作の手が止まりがちな生徒もいる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・活発で積極的に発言できるが、集中して制作に取り組むのが苦手な生徒が多い。 ・創意工夫を凝らして質の高い作品づくりができる生徒も多くいるが、自身の作品の質に興味を持たず、ただ作業をこなして終わらせるだけにとどまる生徒も少なからずいる。 ・見通しを持って制作に取り組めていない生徒が全体的に多く、提出期限を守れない生徒もいる。 ・学習発表会で多くの作品を鑑賞して制作への意識が全体的には少し高まってきた。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学年で積み上げてきた力を発揮してより質の高い作品づくりに取り組んでいる生徒が非常に多い。 ・他者の作品に興味を持ち、お互いの努力の成果や創意工夫を凝らした作品の良さを認め合うことができ、それぞれの制作に対するモチベーションを高めることにつながっている。

生徒の実態および定期考査等を含む学力調査結果等に基づく内容別・観点別分析表（様式2）

保健体育

生徒の学習状況についての実態（定期考査等の結果も含む）	
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対して、意欲的に取り組むことができる。 ・4月当初は、忘れ物をしてしまう生徒や授業開始時間に遅れてしまう生徒がいたが、改善されてきている。 ・定期考査については5教科に比べ、意識がまだ薄い。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・男女とも、どの種目に対しても意欲的に取り組むことができる。 ・体力テストの結果によると、男子、女子ともに二極化の傾向がある。 ・運動会など体育的行事を通して心身ともに成長してきている。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳など単元によっては消極的な生徒が一部いるが、概ね意欲的に取り組む生徒が多い。 ・忘れものも、ほとんどない。 ・運動会、マラソン大会など、体育的行事を通して、体力向上とともに、精神的に大きな成長が見られる。

生徒の実態および定期考査等を含む学力調査結果等に基づく内容別・観点別分析表（様式2）

技術・家庭

生徒の学習状況についての実態（定期考査等の結果も含む）	
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に意欲的に取り組み、発問に対する反応がよい。 ・話し合い活動などは、テーマに合わせて生徒主体で進行できる。 ・今後の製作活動において支援が必要な生徒については、他の生徒と同様に机間指導や放課後など毎年個別の対応を考えているが、支援員や担任とも相談をしながら進めていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容には意欲的に取り組み、発問に対する反応もよい。 ・昨年度に比べて知識理解の内容が少しずつ定着しているようだが、二極化も見られる。 ・準備物の忘れや提出物が期限までに出せない生徒が固定されつつある。 ・作業内容によって、一斉指導の後1対1で説明を繰り返したり常時ついて指導したりする必要のある生徒には、それぞれの困難さに応じて様々な対応をしている。しかし、教員や支援員の数、状況によっては対応が難しい場合もある。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組み反応も良いが、作業では集中力に欠ける場面も見られる。 ・授業の振り返りなど、学んだことや自分の考えを表現しようとする力が向上している。 ・課題の進め具合に差はあるが、やり終えるための工夫をするなど自分なりに完成させようとする意欲が昨年度よりも感じられる取り組み方になってきている。

生徒の実態および定期考査等を含む学力調査結果等に基づく内容別・観点別分析表（様式2）

英 語

	生徒の学習状況について の実態 (定期考査等の結果も含む)	全国、東京都および練馬区の学 力調査と学校の結果分析	内容別・観点別の分析
1年	<p>帯活動として取り組んでいる英語の歌と対話型の活動には積極的に取り組んでいるほか、ノート作りなども丁寧に行っている生徒が多い。一方で各クラスには授業についてこれない生徒が一定数いる。少人数授業のクラス分けなどで配慮していきたい。</p>		<p>ALTによるパフォーマンステストなどでの関心・意欲・態度面での評価はとても高い。理解についても、リスニングの能力は比較的高いと思われる。一方で、表現・知識面では得意とする生徒とそうでない生徒が分かれてしまっている。「書く」トレーニングを今後は進めていく。</p>
2年	<p>授業を意欲的に取り組む生徒が多い。コミュニケーション活動でも積極的に取り組んでいる。音声面でも、大きな声で発音、音読などを行っている。しかし、自己表現やまとまった文章を書くことが苦手な生徒が多い。</p>	<p>都の学力調査では、ほとんどの項目で都の平均を上回っている。Aでは11.4P、Bでは1.8P上回っている。特にAの、思考・判断・表現は20.3P、Bの読み取る力は2.7P上回っている。一方で、関心・意欲・態度では、3.5P下回っている。</p>	<p>「聞くこと」においてまとまりのある英語を聞いて、要点を理解することが苦手である。 「読むこと」において情報を取り出す力が苦手な生徒が多い。そこで、課題解決型の言語活動や生徒の実態に合わせた段階的な指導を行って行く。</p>
3年	<p>帯活動の洋楽歌唱を含め、音声指導に力を入れている。生徒は積極的に言語活動に取り組んでおり、活発にペアワークを行う様子が見られる。知識の定着度に個人差があるので、繰り返しの指導によって定着を図りたい。また、全体としては、自己を表現する能力を高めていきたい。</p>	<p>基礎・活用ともに目標値、区平均、全国平均の正答率を大きく上回っている。目標値に対し、教科全体では11.1p、基礎は10.5p、活用は12.8p、それぞれ上回っている。 領域別では、3領域とも10p近く目標値を上回っている。「聞くこと」においては、目標値より9.8p上回り、正答率が79.8pである。</p>	<p>理解の能力が高く、リスニングによる聴解・文章の読解の両面で、学習の成果が出ている生徒が多い。 知識の定着及び表現力の向上を目指し、学習事項を再確認できる時間を多く確保していく。コミュニケーション活動を通して、実的な自己表現力の涵養にまでつなげていきたい。</p>